

敬語で主語を見抜く 確認テスト（古典読解） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 帝。／琴を弾く動作に尊敬語「(せ) たまふ」が付いており、最も身分の高い帝の動作と判断できる。場面でも「帝……御簾の内にて琴を弾かせたまふ」とある。

問2 尊敬語。「(せ) たまふ」は尊敬の助動詞「す」＋尊敬の補助動詞「たまふ」で、二重尊敬（最高敬語）。これほど高い敬意を払われるのは身分の最も高い帝であり、動作主は帝と判断できる。

問3 大臣。／「御前に参りて……聞きたまふ」とあり、聞く動作の主は帝の御前に参上した大臣である。「たまふ」（尊敬）が付くのは、大臣も従者・女房より身分が高い人物だからである。

問4 尊敬語。「たまふ」は尊敬の補助動詞で、聞く動作をする大臣への敬意を表す。

問5 大臣。／帝に対して「申す」のは、帝の御前に参上している大臣である。

問6 (1) 謙讓語。(2) 動作の受け手は帝。「申す」は「言ふ」の謙讓語で、言葉をかけられる相手（＝帝）への敬意を表すため、受け手が身分の高い帝だとわかる。

問7 (1) 「申す」は受け手である帝への敬意。(2) 「のたまふ」は話し手である大臣への敬意。／③「申したまふ」は謙讓語「申す」で、言葉をかけられる相手（帝）を高める。一方⑧「のたまふ」は尊敬語で、発言する人物（大臣）自身を高める。同じ大臣の発言でも、謙讓語は受け手を、尊敬語は動作主を敬う点で敬意の方向が異なる。

問8 帝。／「汝にこの琴を賜はむ」と言って琴を与えようとするのは帝である。「賜ふ」は「与ふ」の尊敬語で、高貴な人が下の者に物を与える動作に用いる。

問9 (お前に) この琴を与えよう。／「賜は」＝与える、「む」＝意志「～しよう」。

問10 大臣。／帝が「汝（＝大臣）に賜はむ」と言っているので、琴を受け取るのは大臣である。

問11 帝。／「仰す」は「言ふ」の尊敬語で、最も身分の高い人物の発言に用いられる。ここでは帝の発言である。

問12 尊敬語。「仰す」は「言ふ・命ず」の尊敬語で、目上の（最も高貴な）人物の発言を表す。直前で「賜はむ」と琴を与える側でもあり、動作主は帝と判断できる。

問13 大臣。／帝から琴を「給はる（いただく）」のは大臣である。

問14 (帝から琴を) いただく。／「給はる（賜はる）」は「受く・もらふ」の謙讓語で「いただく」の意。与えてくれる相手（帝）への敬意を含む。

問15 帝。／「給はる（いただく）」相手は与えてくれた帝であり、琴を与える側は帝である。

問16 (1) 命じた人＝大臣。(2) 命じられた人＝女房。／大臣が女房を召して「よくよく守れ」と命じている。発言に「のたまふ」（尊敬）が付くのは、話し手である大臣への敬意による。

問17 大臣。／女房に命令の言葉をかけ、「のたまふ」と尊敬語で受けられているのは大臣である。

問18 尊敬語。「のたまふ」は「言ふ」の尊敬語で、発言した大臣への敬意を表す。

問19 (1) 命じた人＝女房。(2) 命じられた人＝従者。／女房が従者に「蔵に納めよ」と指示している。

問20 「納めよ」に敬語が付いていないのは、話し手の女房から見て聞き手の従者が身分の低い者だからである。身分の低い相手への命令には敬語を用いないため、両者の上下関係（女房＞従者）が読み取れる。

問21 動作主＝従者。／「運ぶ」に敬語が付かないのは、従者が登場人物の中で最も身分の低い者であり、その動作には敬意を払う必要がないからである。敬語の有無からも、敬語のない「運ぶ」が身分の低い従者の動作だと判断できる。

問22 尊敬語（特に二重尊敬・最高敬語）。「弾かせたまふ」「喜ばせたまひて」「仰せらる」など、帝の動作には一貫して尊敬語が用いられている。

問23（解答例）尊敬語は動作をする人が身分の高い人だと示す手がかりになる。例えば①「弾かせたまふ」の尊敬語から、動作主が帝だとわかる。一方、謙譲語は動作の受け手が身分の高い人だと示す手がかりになる。例えば③「申したまふ」の謙譲語「申す」から、言葉の受け手が帝だとわかる。このように敬語の種類に注目すれば、省略された主語や受け手を補うことができる。
